

ノーベル賞

札幌 山口 康徳

しとど濡る靴も気にせずOLら紅き傘さし前にらみ歩く
狭き国広めむとする神の意か未曾有の雨に無為無策らは
無辺なる海に発するトラブルは彼我のもやもやとばすチャンスに
やはらかくかつしなやかに兎とび新たな年をことほぐがにみゆ
薪背負ひ家業支へし少年にノーベル賞は燦と輝く

鈴木名誉教授北大初のノーベル賞お目出とうございます

列車妨害

札幌 古屋 統

根室線秋の夜行車駅一つ進むあいだに鹿を二度轢く
えぞ鹿の列車妨害多発域慣れし客らの席を立つなし
急停車聞き取り難きアナウンス列車の床に衝撃ありて
軌道より死骸引き上げ運転手平然として本務に戻る
轢かれたる鹿の死体の片付けも運転業務の日常として

ドサンコにノーベル賞

美唄 吉村 誠治

わが母校理系の強さ示したり工学部よりノーベル賞出づ
ドサンコの鈴木教授のインタビュ―郷土愛する人柄と知る
地方より北大に進まむドサンコよ先輩に続け大志を掲げて
大仏殿に陰陽の宝剣秘められし古代の御心もくにの誇りぞ
奈良の御代ロマンの心輝きて民族の誇り高まりくるる

クガイソウ

札幌 浜島 泉

九丁目通りの角の庭に咲くクガイソウの花 空澄み渡る
街路マスにヤブカンゾウの咲く日和キャンピングカー盆の連休
一心に国会テレビ見入りける言語障がい片麻痺の人
急逝の覚悟促す即座には問ふ言葉なく肯なふ息子
空高し友出勤のバスのなか歩行の我に手を振りて過ぐ

北海道医歌人会詠草

起死回生

釧路 児玉 昌彦

手術場へ直行したるストレッチャ―地獄の釜のごと扉開く
組板の鯉のぞきこむ顔・顔・顔・ナスの笑顔・菩薩にも似て
一編の映画のごとき夢心地覚めればオベも無事終りいぬ
リハビリの指導を受けて一日ごとスムースになるからだの動き
刑期終え出所の朝もかくあらん陽光まぶしく病院あとに

新春酔歌

栗山 高田 剛太

やわらかき頬を染めゆく初春の陽に幼子の瞳輝く
和服着て神棚に手を合わせれば年に一度の朝酒旨し
今年こそ何かを遂げむと思えども三日過ぎれば只の酒飲み
久々に娘らの集いて笑いあう声を聞きつつ寝るも幸せ
白銀の田畑貫き真直な道を走りて初仕事なり

古きパスポート

旭川 稲積 文子

親子三人寄りそう寫眞のパスポートただひたすらなつぶらな瞳
たよりたる清き瞳に支えられ診療にはげみし吾が若き日
海底のトンネル過ぎるそのさ中靄を突拂いカシオペアは走る
途惑いの顔を見たさに非情なる言葉を投げし若きのいたづら
再会し姉妹なりしも忘れしか互に不気味にうなり合う猫

働くといふこと

江別 三宅 浩次

ペーシック・インカムといふキーワード働く意義の間ひ直しかも
働けど働けどといふ啄木の時代を今やいかに思ふや
若者の就活半数ままならぬミスマッチといふ怪しげな理由
豊かさは労働といふ意味を変へ誰のためやら何のためやら
家族らの団樂の声聞きながら休日には良しありがたきかな